

報道関係各位

2019年7月30日

LIXIL、ユニセフとのパートナーシップ締結から1周年 ケニア、エチオピア、タンザニアでの活動報告

株式会社 LIXIL グループ（以下 LIXIL グループ）は、ユニセフ（国連児童基金）とのパートナーシップ「Make a Splash! みんなにトイレを」締結から1周年を迎えました。2018年7月26日に締結された本パートナーシップは、持続可能な開発目標（SDGs）のターゲット6.2^{※1}の実現を目指すものであり、ユニセフが日本企業と初めて締結した「シェアードバリュー・パートナーシップ」です。

※1 SDGs ターゲット 6.2: 「2030年までに、すべての人びとの、適切かつ平等な下水施設・衛生施設へのアクセスを達成し、野外での排泄をなくす。女性および女児、ならびに脆弱な立場にある人びとのニーズに特に注意を払う



SATO を販売する様子（シヤヤ、ケニア）

ユニセフは特定の企業やブランド、製品、サービスを推奨するものではありません

世界では現在も地域の風習や他に選択肢がないという理由で、多くの国で日常的に屋外排泄が行われています。不衛生な水と劣悪な衛生環境による下痢性疾患により、毎日およそ800人^{※2}の5歳未満の子どもが亡くなっています。また、安全で衛生的なトイレがないことは女性にとっても様々な深刻な問題につながっています。

※2 [Joint Monitoring Programme report, Progress on drinking water, sanitation and hygiene: 2000-2017: Special focus on inequalities](#)（英語のみ）

このパートナーシップは、こういった衛生環境の向上へ貢献していくものです。衛生環境の改善に向けた行動変容の促進におけるユニセフの知見と、ニーズに応じた安価なソリューションを生み出す LIXIL グループの専門性という両者の強みを活かしながら、すでにケニア、タンザニア、エチオピアで活動を開始しています。

パートナーシップが注力する3つの活動分野における初年度の進捗を報告します。

□ 衛生市場の確立を目指したプログラムを展開

このパートナーシップは、革新的なアプローチを用いながら、人びとのニーズや予算に応える製品を市場に導入することで、開放的な衛生市場の形成を行っています。各国で協働し、人びとの行動変容を促すとともに、衛生製品への需要拡大を目指しています。ケニアでは、既存のサプライチェーンの強化に注力し、工場、小売店、NGOや地方自治体を結集させ、さらなる機会創出へ向けた課題解決と協力関係の発展を目指しています。タンザニアでは、政府による衛生環境の改善に向けた施策を支援し、現地のニーズを満たしながらも成果のモニタリングを実施しています。一方エチオピアでは、LIXIL グループは、サプライチェーン構築によって、衛生市場の確立に貢献できるよう努めています。

今後数カ月の間、これらの実績をもとに新しい市場で協力関係を強化し、3カ国内で活動を広げていきます。

□ 本プロジェクトへの資金調達

本パートナーシップ締結は、LIXIL グループの従業員のエンゲージメントを向上する目的もありました。日本国内外の従業員向けのプログラム“Team Splash”（チーム・スプラッシュ）のもと、多くの従業員が寄付を通してパートナーシップの活動を支援しています。

また、この支援の輪を、LIXIL グループが日本国内で実施し、3期目を迎える「みんなにトイレをプロジェクト」^{※3}にも拡大しました。対象期間中、日本国内で販売したシャワートイレの売上の一部が「Make a Splash! みんなにトイレを」に寄付され、パートナーシップの活動に充てられます。

※3 2019年は6月から11月まで実施

□ アドボカシー（政策提言）の取り組み

ユニセフとLIXILグループはともに、2025年までに全世帯に高品質なトイレ環境を整備することを目標にしたタンザニア政府による衛生課題解決キャンペーン“Nyumba Ni Choo”（家にトイレを）に参加し、協働しています。

今後は活動の規模を拡大するために、他国でも同様の官民主導の衛生環境改善に向けた活動の展開を奨励する予定です。両者は一丸となって政策上の課題および取り組むべき施策を特定し、衛生課題の解決を加速していきます。

株式会社LIXILグループ 執行役専務 コーポレートレスポンスビリティ担当 Jin Montesano のコメント：

「日常的に屋外排泄を余儀なくされている人びとは、現代においても世界の至る所にいます。また、不衛生な水や環境が疾患を引き起こし、本来回避することができるはずの死に至らしめる主な原因となっています。こうした現状に対し、衛生分野の教育において知見を有するユニセフと、衛生課題へのソリューションを持つLIXILグループの連携が成果を生み出しつつあります。世界の衛生環境の改善に最善を尽くすことで、地域社会そして子どもたちの未来にも貢献できると確信しています」

SATO CEO 後藤淳一のコメント：

「この1年間、ユニセフとの現場での連携を通して、私たちが協働することで、変化をもたらすことができるということを実感しています。また、次年度に向けた、厳密なモニタリングやトラッキングを含む、詳細な活動計画を完成させています。開発途上国向けに開発した独自のブランド「SATO」で実現可能なソリューションを提供し、市場を形成しながら、地域や社会に価値をもたらす貢献できることを誇りに思います」

ユニセフとLIXILグループは、地域社会とともに安全で衛生的なトイレの必要性と需要を促進する活動を行っています。浸透が困難な場所であっても、地域を特定し、ターゲットを絞ることで普及を進めています。

ケニア：ローズ・オチェング氏とジェイコブ・アリーク氏

ケニアのヌドゥール村のACK教会の信者たちは、現在SATOを使用しています。

最初にSATOを紹介したのは、この地域の保健ボランティアであるローズ・オチェング氏でした。教会への献金の一部から、2台のSATOスツールと2台のSATO汲み取り式トイレを購入する費用として、3,000ケニアシリング(30米ドル)を捻出しました。

教会の管理人であり、日中は漁師であるジェイコブ・アリーク氏は、SATOを無償で教会に設置すると申し出ました。現在、教会の沐浴所には、2つのドア付き汲み取り式トイレとバスルームが男女別に設置されています。

以後、信者の自宅にSATOを設置する仕事は、彼の新たな収入源となっています。

Make a Splash!ウェブサイト：<https://www.lixil.com/en/makeasplash/>



■ユニセフについて

ユニセフ（UNICEF：国際連合児童基金）は、すべての子どもの権利と健やかな成長を促進するために活動する国連機関です。現在 190 の国と地域※で、多くのパートナーと協力し、その理念を様々な形で具体的な行動に移しています。特に、最も困難な立場にある子どもたちへの支援に重点を置きながら、世界中のあらゆる場所で、すべての子どもたちのために活動しています。

（www.unicef.org）

※ユニセフ国内委員会（ユニセフ協会）が活動する 34 の国と地域を含みます